

沈みゆく街と消えない記憶

松本侑壬子・ジャーナリスト

昨年度のベネチア国際映画祭で審査員満場一致で金獅子賞グランプリを受賞した作品。ジャ・ジャンクー監督は、その鋭い歴史感覚でギリシャのテオ・アングロプロス監督に、繊細な人間描写で日本の小津安二郎監督に例えられる。壮大な時代の流れの中に名もない庶民の生の輝きを塗り込めるように描いている。

世界第3の大河、中国の長江（揚子江）は、中国大陸を東西に横断する6300キロにも及ぶ中国全土の大動脈だ。途中にある三峡は、古代文明発祥の地であり、古来山水画の題材にされる美しい3つの大峽谷で知られる。しかし、その中・下流は豪雨の際には、大洪水で人命や財産を奪う大災害の源でもあった。

三峡ダム建設は、中国革命の父・孫文以来の悲願であった。万里の長城以来の国家プロジェクトと言われるこの大工事は、洪水を抑えるとともに、貯水容量・発電能力ともに世界最大の規模となる。その一方、ダムにより130万人以上の住民が移住を強いられ、多くの歴史的遺跡は永遠に水底に沈んでいく。日本でも沈みゆく故郷を撮影し続けた岐阜県徳山村のカメラばあちゃん増山たづ子さんを思い出す。水底に沈む村や街への哀切の思いは記憶となり、やがて伝説となるだろう。

この映画は、こうした歴史的背景を踏まえながら、ダムによって沈む2000年の歴史ある古都、奉節（フンジェ）とそこに暮らす人々の姿を腰を据えて見つめる。

ソニーの小型手持ちビデオによる、まるでドキュメンタリーのような現実感あふれる画面から「これほど絶望に満ちた場所でさえ、『生』はまば

ゆいまでに色鮮やかに花開くのだ」という監督の熱い思いが伝わってくる。

悠々たる大河を行き交う船は船客それぞれの人生をも運んでくる。山西省の炭鉱労働者ハン・サンミンは、16年前に別れたままの妻子を探しに三峡へやって来た。昔妻が住んでいた場所にチンピラ風の青年のバイクで連れてきてもらうが、そこは既に水中に沈んでいた。役所に行っても消息は不明だ。しばらく市内に部屋を借りて、妻子の行方を探すことにする。無口なサンミンだが、この町で出会うチンピラも、宿の主人も、親戚の男もみなどこかしら心が通じる。

三峡に働きに出たきり2年間音信不通の夫を探しにやって来たシェン・ホン。探し当てた場所に夫は居ず、代わりに夫の荷物だけが残っていた。遠く、貧しく、心細い旅だが、一目夫に妻に会いたい、もう一度夫婦一緒に暮らしたい。その思いだけを頼りにやってきたそれぞれの男女だった。

ついに再会したサンミンの妻ヤオメイは、今は義兄の借金のカタによその男に囲われている。長江を望む廃屋の片隅で、しゃがんだまま見つめあう二人。妻はサンミンとも売買婚だったのだが、16年たってもサンミンには忘れられない恋女房だ。すぐに連れて帰るには、借金が重い。サンミンは1年後を約束し、金を稼ぐために山西省で危険な仕事に就こうと心に決める。妻はそんな夫に黙って一粒の飴を差し出す…。一方、シェン・ホンはやっと夫と再会したもの…。哀しさに抗うように毅然と独り上海行きの船に乗る胸の内。

現代中国を描く、まるで古典劇のような格調高い作品である。



中国映画（113分）／ジャ・ジャンクー監督

『長江哀歌』

8月18日（土）よりシャンテシネほか全国順次ロードショー

